

ナツエビネ

(学名 : *Calanthe puberula*)

(写真・文 太田祥作)

【ラン科エビネ属】



盛夏の頃、只見の森の林床にナツエビネというランが咲きます。

北海道から九州まで全国に分布するものの、いずれの地域においても稀で、只見町でもやはり滅多に見ることのできないランです。山地の湿り気のある、落葉広葉樹林の林床に生育します。多年草で、笹にも似て皺のある常緑の葉は通年見ることができます。盛夏になると、高さ20cm~40cmの花茎が立ち上がり、淡紫色の花を下から順に咲かせてゆきます。個々の花は竜の頭にも見える独特な形をしており、全体としては気品に溢れた、たいへん魅力のある花姿をしています。

ナツエビネは希少種で、最新版の環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類、ふくしまレッドリストでは絶滅危惧ⅠA類に選定されており、絶滅の危機に瀕しています。その減少要因は、かつてのエビネブームによる園芸目的の盗掘でした。多くのランと同様に本種もまた野生の株が売買されていますが、ブームが去った今、以前よりは森の中で出会う機会があります。これからも自生地でナツエビネ本来の花姿が観察できるよう、発見した際には写真を撮るだけに留め、生育場所などの情報は広めないよう、お願いいたします。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「只見のカエル」

会期：2022年6月11日(土)~2022年9月12日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー